

町に移住して 自満のトマトを育てる

東庄町に移住し、就農した若者に町の魅力を聞きました。



——トマト農家になったきっかけを教えてください。

以前は一般企業で会社員として働いていましたが、とても忙しく、自分の人生を変えるために転職を決意しました。仕事を選ぶときに思い出したのが、大学時代に、出会った青森県のニンニク農家さんでした。その人がとてもカッコいい人で、「自分もかっこよくて、気持ちのよい人間になりたい」と憧れを抱き、農家になることを決意しました。

農業大学校で、野菜の育て方を一から学び、実習先でトマト栽培を経験したことで、トマト農家の道がはじまりました。

トマト農家

おがた しゅん
緒方 駿

船橋市出身／1989年生まれ。大学卒業後、一般企業に就職。農業大学校（社会人コース）を経て農家として独立。東庄町に移住・就農して5年目となる。



緒方農園（東庄町神田3） トマトの看板が目印



——東庄町で就農をした理由。

偶然実習でトマト農家に行っていたこともあり、神田にあった農業用ハウスでフルティカ（トマトの品種）の栽培を「1年間やってみないか」と紹介してもらいました。

わたしは、トマトが大嫌いでしたが、フルティカを初めて食べた時、生まれて初めて「トマトがおいしい」と感激しました。そして、「トマト嫌いのわたしが食べられるなら、みんなも食べられるはず。トマト嫌いが食べられるトマトを追求したい」と思い、この地でトマト農家となりました。

青年等就農給付金の農業次世代人材投資事業のうちの経営開始型（現在は新規就農育成対策の経営開始資金型）で、役場に相談して、就農へごぎつけました。

毎日150kg以上のトマトを収穫して、出荷しています。出荷したトマトは、主に関東近郊のスーパーに並びます。船橋市在住の方が「このトマトがおいしい！直接買いたい！」とわたしの事を探し出してくれたという、農家として嬉しいこともありました。

——今後の挑戦について。

町への就農支援の恩返しも含めて、ふるさと納税の返礼品としてトマトジャムを開発しました。

3年前に、パートさんが作ったジャムが本当においしくて、作って広めたいと思ったのがきっかけです。

今年度中には農園内に、ジャム加工所を建て、生産を軌道に乗せたいです。

——町の方へのメッセージ。

わたしは、町外から来たものですから、町の人と壁があるかな、町でやっていけるのかな、と心配がありました。ですが、偶然行ったイベントで、町の人から「トマト農家

の緒方さん！」と話しかけられる事があり、とても嬉しいです。

今まで、町内のイベントで販売していましたが、もっと多くの人に購入いただけるようにと考えています。見かけましたら、ぜひ自慢のトマトやジャムを食べていただきたいです。わたしにも、気軽に話しかけてください！



緒方さんと同じように就農するには

新規就農育成総合対策

経営開始資金(国補助金)

新たに経営を開始する人に資金を助成します。

○対象者

経営開始時に49歳以下の認定新規就農者

※新規参入者、親元就農者（親の経営に従事してから5年以内に継承した者）のうち、新規作物の導入等リスクがある取り組みを行うと町が認めるもの

※前年の世帯所得が原則600万円未満の者

○支援額

12.5万円/月(150万円/年) 最長3年間

問い合わせ

まちづくり課農政係
☎6076

